

# 可能世界 EXPLORATION IN Possible Spaces 空間論

空間の表象の探索、のいくつか

開催概要

2010年1月16日(土)–2月28日(日)

NTTインターコミュニケーション・センター [ICC] ギャラリーA

開催時間 午前10時–午後6時(入館は閉館の30分前まで)

休館日 月曜日/保守点検日(2/14)

入場料 一般・大学生500(400)円/高校生以下無料

※( )内は15名様以上の団体料金

主催 NTTインターコミュニケーション・センター [ICC]

住所 〒163-1404 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー 4階

京王新線初台駅東口から徒歩2分

お問い合わせ ☎0120-144199 E-mail: query@ntticc.or.jp URL: <http://www.ntticc.or.jp/>

図版: 館知宏(オリガミ スタンフォード・パニー) 2007

お問い合わせ

NTTインターコミュニケーション・センター [ICC]

広報担当: 高橋良彰 企画担当: 畠中実

TEL: 03-5353-0800 FAX: 03-5353-0900

E-mail: query@ntticc.or.jp

URL: <http://www.ntticc.or.jp/>

プレス内覧会

2010年1月15日(金)

午後6時30分より

場所: ICC ギャラリーA

このたび、

NTT インターコミュニケーション・センター [ICC] では、特別展「**可能世界空間論——空間の表象の探索、のいくつか**」を開催いたします。

仮想空間技術によって、自然環境や社会構成をもシミュレート可能なものになっている現在、インターネット上に構築される3D 仮想空間であるメタバースとは、現実の世界とどのように違い、それゆえにどのようなことが構想されうる空間なのでしょうか。

**ICC メタバース・プロジェクト**は、そうしたメタバースをどのように活用することができるか、ということテーマにした長期プロジェクトとして発足しました。**アートからデザイン・エンジニアリング、建築空間としての仮想空間と身体との関係、コミュニケーション・プラットフォームとしての仮想空間、情報社会論**といった観点からメタバースを捉え直すことで、それが内含する問題を研究会によって議論し、その実践として展覧会を行なう、といった一連の企画において、さまざまな方法を通じてメタバースの可能性を検証しようとするものです。

都市空間の変遷と社会構造が関連づけて論じられるように、これまで、わたしたちの空間認識の方法が変化するのに伴って、わたしたちの意識や世界観は変化してきました。モダニズム以降の中心のない均質空間の確立から、インターネット時代の離散的で非線形的な空間へ、といった空間概念の変化は、わたしたちの思考にどのように変化をおよぼしているのでしょうか。それは、インターネットという情報空間に形成されたアーキテクチャによって、現実社会の構造の変化が示唆される現在において、より顕著に表わされるものだといえるでしょう。

この特別展は、メタバース研究会での議論を基礎に、**インターネット・アーキテクチャやコンピューテーション**といった方法を用いて新たな空間認識を模索し、その関係性によって顕在化する可能世界を提示することを通じて、社会設計の実験や実践へも視野を拡げようとするものです。4組の参加作家がさまざまに取り組み「空間の表象の探索」をお楽しみください。

## ICC メタバース・プロジェクト

### ●メタバース研究会

2009年2月より、ICC ONLINE にて4回掲載

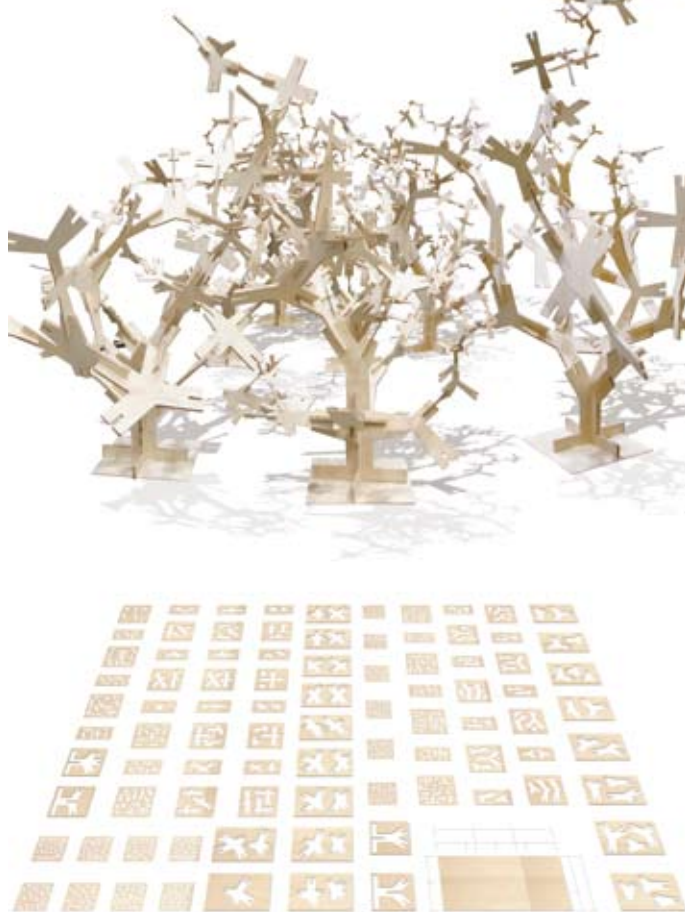
[http://www.ntticc.or.jp/Exhibition/2009/MetaverseProject/index\\_j.html](http://www.ntticc.or.jp/Exhibition/2009/MetaverseProject/index_j.html)

参加者：エキソニモ、江渡浩一郎、柄沢祐輔、田中浩也、ドミニク・チェン、濱野智史

### ●エキソニモ〈ゴットは、存在する。〉

2009年11月28日(土) — 2010年2月28日(日)

[http://www.ntticc.or.jp/Exhibition/2009/Openspace2009/GotExists/index\\_j.html](http://www.ntticc.or.jp/Exhibition/2009/Openspace2009/GotExists/index_j.html)



## オープン・(リ)ソース・ファニチャー Ver. 1

2009年—

田中浩也＋岩岡孝太郎＋平本知樹

パーソナル・コンピュータの普及によって、まず出版や音楽、映像において一般化した個人レベルの制作活動の波は、現在家具や建築のデザインにまで及んでいます。比較的安価な3Dプリンタの登場は、デザインから出力、完成品の組立てまでの全ての工程を個人のみでまかなうことを可能にしました。こうした個人による工作の可能性が拡張された状況をふまえた本プロジェクトでは、そこにアルゴリズム的な生成過程を組み込むことにより、さらにデザインの可能性を拡げようとしています。複数のパラメータを任意に設定し、決定された基本形から自動的に生成するさまざまな形状の部品を自由に組み立てることで、多様な空間が作り出されます。またそこから機能や用途が見出されていく過程を、まるで植物を栽培するように観察することができるかもしれません。会場にはCNC(コンピュータ数値制御)工作機械が設置され、来場者は自分でデザインした部品をその場で作成することができます(週1回を予定)。

制作協力：慶應義塾大学田中浩也研究室、財団法人国際メディア研究財団

### 田中浩也

1975年北海道生まれ。京都大学総合人間学部基礎科学科、同大学院人間環境学研究科修了後、東京大学空間情報科学センター、京都大学情報学研究科COE研究員を経て、現在は慶應義塾大学環境情報学部准教授。博士(工学)。財団法人国際メディア研究財団非常勤研究員を兼務、環境装置開発ユニット“tEnt”共同主宰。動的・生成的な空間デザインの為のツール開発、ノーテーション開発、デバイス開発、システム開発等を理論から実装まで幅広く手がける。主な受賞に2008年アルス・エレクトロニカハイブリッド・アート部門Honorary Mention(tEntメンバーとして)。

### 岩岡孝太郎

1984年東京都生まれ。千葉大学工学部デザイン工学科卒業後、建築設計事務所勤務を経て、慶應義塾大学政策・メディア研究科修士課程に在籍。

### 平本知樹

1987年兵庫県生まれ。千葉大学都市環境システム学科卒業後、慶應義塾大学政策・メディア研究科修士課程に在籍。

## 建築折紙

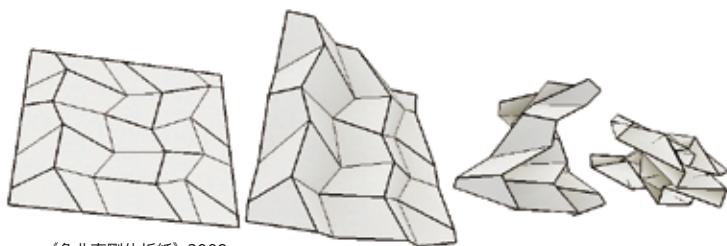
2009年

### 館知宏

折紙は、一枚の紙を折ることで多様な形態を作る芸術・文化・遊びであり、近年では日本だけに留まらない世界共通の芸術媒体として、多様な表現が試みられています。折紙はまた、二次元と三次元のあいだで状態が移り変わる動的特性、一枚の連続面という性質、折りによって作られる陰影や空間表現などから、工学デザインにおける新しい手段としても着目されています。ここでは、特にアダプティブな環境創生のための折紙の設計理論に加え、それに基づいたデザインツールを実装することで初めて完成する「建築折紙」を提案します。人間と環境との関係性の諸条件から折紙のパターンを導き出すというアルゴリズムによって生成される形態に対して、デザイナーが新しい意味や関係性を発見していくという過程を繰り返すことにより、最終的な形態が決定されます。会場では、三つの折紙理論と対応するデザインツール、またそれを用いることで可能となった新しい折紙を展示します。

### 館知宏

1982年生まれ／コンピューティショナルアーキテクト、折紙工学者。東京大学工学部建築学科卒、同大学院工学系研究科建築学専攻博士課程在籍。日本学術振興会特別研究員。折紙を離散微分幾何的に拡張する数理研究、折紙の新しい表現や工学的応用のためのコンピューティショナルなデザイン手法の研究を行なう。立体折紙で実現したティーポットはイスラエル・ハイファのティコティン日本美術館に永久収蔵されている。IPA未踏ソフトウェア創造事業で研究開発した三次元折紙デザインのためのソフトウェアを公開している (<http://www.tsg.ne.jp/TT/>)。



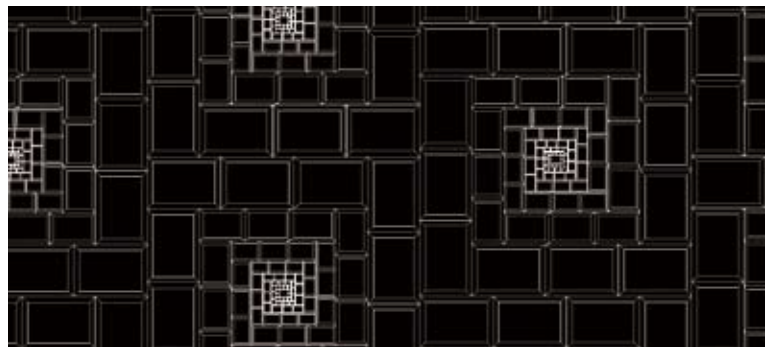
《負曲率剛体折紙》2009

## ソーカル(仮題)

2010年

### エキソニモ

エキソニモによる新作インスタレーションを展示します。4階で展示中の《ゴットは、存在する。》とも連携した展開を予定しています。



## 中心が移動し続ける都市

2009年

### 柄沢祐輔＋松山剛士

2008年にノーベル経済学賞を受賞したポール・クルーグマンは、著書『自己組織化の経済学——経済秩序はいかに創発するか』において、資本主義に基づく資本の自己増強（自己組織化）のメカニズムが、どのように都市空間の発展、さらにその帰結として中心地と後背地といった不均衡をもたらすかを、複雑系の概念を応用した数学的モデルによって独自に説明しています。このインスタレーションは、その資本の自己増強メカニズムを逆手にとって解釈し、都市の不均衡を招く空間的自己組織化をゆるやかに解体・コントロールする方法論を、新しい幾何学と数理モデルによって提案します。動的な中心地と後背地の関係を記述する都市モデル自体が、都市の生成プログラム・コントロール・システムとなることで、自己組織化に関与する新しい都市モデルがグラフィカルに提示されます。

### 柄沢祐輔

1976年生まれ。慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科建築・都市デザインコース修了。文化庁派遣芸術家在外研修制度にてMVRDV（オランダ）在籍を経て、2006年に柄沢祐輔建築設計事務所設立。情報論的、あるいはアルゴリズム的な思考を軸とした建築・都市空間の探求を行っており、『10+1』48号「アルゴリズム的思考と建築」特集（INAX出版、2007年）では責任編集者として編集を行なった。作品に「villa kanousan」（2009年）など。

### 松山剛士

1978年生まれ。慶應義塾大学環境情報学部卒業、同大学院政策・メディア研究科修了。非線形科学研究者。2003年gh9設立。非平衡開放系における自己組織化のダイナミクスと生成される構造を研究しており、主に意識現象の生成メカニズムの探求から、人間の認知機構における情報処理プロセスの数理的解析、自然界に潜在する各種発展方程式、マクロ経済システムの時系列での収束の研究などを行なう。

ネットワークの向こう側の空間。

デスクトップに存在するカーソルと言う縄張り。

モニターを見ている自分という座標。

それら複数の時空が織りなす、レイヤー化された現代のアイデンティティ。

そんな分断されつつ同時に成立する自己を

攪乱するインターフェイスを制作します。

その体験を経ることで、僕たちはゴットに一步近づけるかもしれない。

——エキソニモ

### エキソニモ

1996年結成。千房けん輔と赤岩やえによるアート・ユニットとして、東京と <http://exonemo.com/> を拠点に活動。デジタルとアナログ、ネットワーク世界と実世界を柔軟に横断しながら、テクノロジーとユーザーの関係性を露にし、デジタル・メディアが現代社会へ与えるインパクトについて、ユーモアのある切り口と新しい視点で作品に反映させる実験的なプロジェクトを数多く手がける。2006年、『The Road Movie』がアルス・エレクトロニカ（オーストリア）ネット・ヴィジョン部門でゴールド・ニカ賞を受賞。現在、本展と同じく「ICCメタバース・プロジェクト」の一環として《ゴットは、存在する。》をICCで展示中（2010年2月28日（日）まで）。

## 関連イベント

### ギャラリーツアー

2010年1月17日(日)、2月20日(土) 午後2時—3時  
定員:各回20名(事前予約不要・当日午後2時にICCギャラリーA前集合)  
担当学芸員が、展覧会の内容や各作品について解説します。  
\*展覧会チケットが必要です

そのほか、会期中にイベントを予定しています。  
詳しくはホームページなどで最新の情報をお知らせいたします。

## その他の展示

### オープン・スペース 2009

展示期間:2009年5月16日(土)—2010年2月28日(日)  
開館時間:午前10時—午後6時  
休館日:月曜日(月曜が祝日の場合は翌日)、保守点検日(2/14)  
入場無料(企画展をご覧になる場合は、別途入場料が必要です)

### エマーゼンシーズ! 013

#### voice.zero <super-ultra-great-media-art.org>

展示期間:2009年12月12日(土)—2010年2月28日(日)  
\*「エマーゼンシーズ!」は、これから期待されるアーティストやクリエイターの最新の作品やプロジェクトをいち早く展示するコーナーです。

NTT インターコミュニケーション・センター [ICC] は、日本の電話事業100周年(1990年)の記念事業として1997年4月19日、東京/西新宿・東京オペラシティタワーにオープンした文化施設です。ICCは「コミュニケーション」というテーマを軸に科学技術と芸術文化の対話を促進し、豊かな未来社会を構想していきます。

## 広報に関するお問い合わせ

NTT インターコミュニケーション・センター [ICC]

広報担当:高橋良彰

TEL: 03-5353-0800 FAX: 03-5353-0900

E-mail: query@ntticc.or.jp

URL: http://www.ntticc.or.jp/

## 東京オペラシティアートギャラリーとの相互割引

東京オペラシティアートギャラリーで開催される「エレメント 構造デザイナー セシル・バルモンドの世界」の入場券をご呈示いただくと、本展に団体料金でご入場いただけます。また、「エレメント 構造デザイナー セシル・バルモンドの世界」にご入場の際に、本展入場券をご呈示いただいた場合も、団体料金でご入場いただけます(他の割引との併用不可。ご本人様のみ1回限り有効)。